

9. 今後の課題

9-1 横断・連携的検討組織の構築

CMP 2006 の重要な方針のひとつである施設・環境マネジメントを実現していくためには、従来の組織の横断的、連携的な動きが必要不可欠である。

例えば、キャンパスマスタープラン策定のために組織された生態環境や埋蔵文化財サブワーキンググループと、従来のエコキャンパスワーキンググループが、総合博物館、北方生物圏フィールド科学センターと協働で、キャンパスの環境管理や創造活動、さらには、地域との連携を含めた様々なソフトウェアを展開していくことが求められる。

9-2 地域の計画との連動

9-2-1 キャンパスとその周辺に対する長期的・広域的位置付け

大学は、都市やキャンパス周辺の様々な組織とどのように手を組みながら、新たな環境づくりを行っていくのかが、今後の重要な課題となる。

大学と、国、北海道、札幌市、民間企業などとの定例的な協議の場を構築し、連携を進める必要がある。

具体的には様々な連携が考えられ、これらについて行政(札幌市)や関係団体との協議を行いながら、連携による目標の明確化と実現化のための検討を行う。

9-2-2 地域コミュニティとの連携

キャンパス周辺地域のコミュニティと良好な共存関係を目指した再生を行うために、大学ができる役割を検討する必要がある。

そのための検討項目を以下にあげる。

- 大学周辺（キャンパス・エッジ）と周辺市街地との空間的連続性の確保
- 大学と行政(札幌市)・地域住民による融合連携の展開を取り組む地区としては、北 18 条～北 24 条の学生住宅が多く立地する地域があり、今後連携推進を検討する必要がある。